

第6章 業務・活動報告のまとめ

2014年度は、構内遺跡の試掘・立会調査、出土資料の整理作業、展示会、資料貸出、資料調査協力、出土資料の保存処理といった業務を実施した。それに加え、各調査員が個別に研究調査活動を行った。それぞれについてまとめると、以下の通りである。

【構内遺跡の試掘・立会調査】

試掘調査は南常三島地区で1件、石井地区で1件を実施した。南常三島地区地域創生・国際センター新営地点では、近世の宅地開発に伴う盛土が検出され、絵画でしられる「常三島」地区の南限を確認した。石井地区生物資源産業学部豚舎新営地点では、近代の水田層が確認されたが、当初、予想された弥生時代の遺構および包含層は検出されなかった。立会調査は、蔵本地区で1件、南常三島地区で2件、合計3件を実施した。

【出土遺物の整理・公開・活用】

整理作業は、新蔵遺跡（第1次調査）、庄・蔵本遺跡（第24～29次調査）、常三島遺跡（第3・5・19・20次調査）出土資料（合計10地点分）について実施した。そのうち、新蔵遺跡については、『新蔵遺跡ー地域・国際交流プラザ地点ー』（徳島大学埋蔵文化財調査報告書 第4巻）を刊行した。また、『国立大学法人徳島大学埋蔵文化財調査室紀要』創刊号を刊行し、調査室の業務・活動報告、ならびに調査・研究成果を掲載した。他にも『徳島大学埋蔵文化財調査室ニュースレター』No.1を作成し、調査室の活動や大学構内遺跡の紹介を行った。

展示会は、本学附属図書館本館3階資料展示室にて、ミニ展示「江戸時代の常三島」を開催し、829名の来場があった。また、徳島県立博物館常設展、同館企画展、徳島市立考古資料館企画展、国立歴史民俗博物館企画展示、尼崎市立田能資料館特別展、横浜市歴史博物館企画展、海陽町立博物館企画展の7件について、庄・蔵本遺跡出土の遺物と写真の貸し出しを行った。そして、庄・蔵本遺跡第27次調査旧河道出土の木製品の保存処理、常三島遺跡第3・5次調査火葬墓出土人骨のクリーニング・分析を外部機関に依頼し、実施した。

【調査室員の研究教育活動】

本年度は3名の室員によって研究教育活動を実施した。研究業績は、論文等4件、研究発表4件、外部資金3件を数える。また教育では、授業4件（全学共通教育4件、非常勤1件）を担当した。

（脇山佳奈）